



平成25年 3月22日

南海トラフ地震発生時の津波による岡山市の浸水過程

岡山大学大学院環境生命科学研究科の前野詩朗教授、吉田圭介准教授らの研究グループは、南海トラフ巨大地震が発生した際の岡山市内への津波の遡上および浸水過程について、想定される様々な条件下で数値シミュレーションに基づいて検討しました。その結果、津波は地震発生時より約3時間後には岡山市の吉井川河口付近から陸上へ遡上を開始した後、岡山市内の広範囲に渡って浸水する可能性が示されました。

<対象とする地震と津波高>

南海トラフ巨大地震では複数のすべり域が想定されており、ここでは岡山市に襲来する津波高が最大となる「四国域すべり域」の地震津波を解析対象としました。内閣府の中央防災会議では地震発生後の日本広域の津波計算が実施されており、本解析ではその結果得られる岡山県山田港の津波高および岡山県内最大津波高を勘案して浸水状況を検討しました。

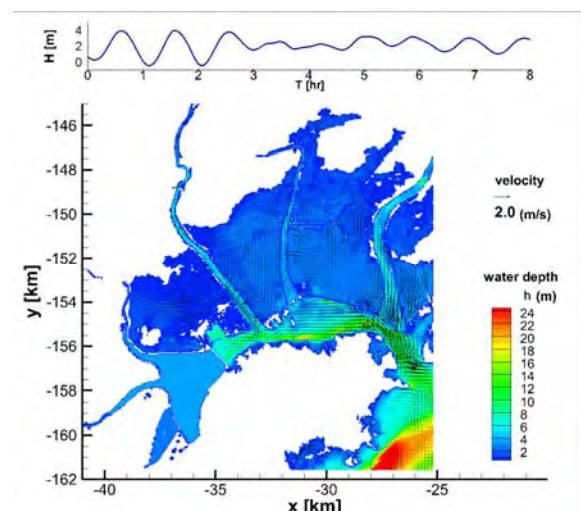
<解析手法と条件>

(財)国土技術研究センター発行の「津波の河川遡上解析の手引き」を参考にして、次の条件で津波による浸水解析を行いました。1)解析範囲：児島湖を含む岡山市の南北17km、東西16kmの領域で、格子幅50mで分割、2)解析時間：地震発生後3時間から11時間まで、3)地表粗度と標高値：中央防災会議提供のデータ

<解析結果について>

本解析の詳細は以下のホームページでご覧頂けます。

http://www.okayama-u.ac.jp/user/civil/Labs/hydrau/maeno_yoshida.html



解析開始より8時間後の浸水範囲（解析の一例、児島湾・児島湖間の堤防を締切り状態とした場合を想定している。Hは岡山県山田港で想定される津波高を1.8倍したもので、津波遡上解析の境界条件として利用している）

<お問い合わせ先>

岡山大学 大学院環境生命科学研究科

教授 前野詩朗, 准教授 吉田圭介

086-251-8151, 086-251-8149

maeno@okayama-u.ac.jp, yoshida.k@okayama-u.ac.jp